

中華人民共和国重慶市及び四川省における 方言番組をめぐる政策について (2)

A Study on Dialect Program and Its Policy in Chongqing City
and Sichuan Province, the People's Republic of China (2)

小 田 格

要 旨

本稿は、中華人民共和国の重慶市及び四川省における漢語方言を使用したラジオ・テレビ番組（方言番組）をめぐる政策を考察するものである。今号においては、従前の当該地域におけるテレビでの方言番組の放送状況を記述した。その概要は次の通りである。すなわち、当該地域では、1980年代にテレビ放送が本格化するなかで、四川電視台が川劇に注力するようになった。その後1980年代終盤からは、重慶電視台及び四川電視台が四川話によるドラマ制作に取り組み、1990年代中盤以降は方言による欄目劇や情景劇が新たに始められた。2000年代に入ると、方言番組はジャンルを拡大し、テレビ放送での確固たる地位を築き、省級局を中心に地方の特徴を活かすという名目で重宝された。他方、四川省内の各地級市では、2000年代終盤頃ようやく方言番組が放送されるようになり、全国的な方言番組ブームとは縁遠い状態であった。

キーワード

重慶市、四川省、漢語方言、標準中国語（普通話）、方言番組

本稿は、本誌第105号掲載の「中華人民共和国重慶市及び四川省における方言番組をめぐる政策について (1)」(第1章～第4章第1項)の続きである。

IV. 方言番組の放送状況

2. テレビ放送

(1) 1970年代前半まで

1958年四川省初のテレビ局として成都電視台（現・四川電視台）が設置される。しかし、その活動は長らく試験放送の実施が中心であり、さらにプロレタリア文化大革命（以下「文革」という）の影響を受けるなど、1970年代頃まで不安定な時期が続いた。同台が当時放送していたのは、主として北京電視台（現・中央電視台）等の番組であり、自らニュースの取材やスポーツ大会の収録等を行うこともあったようではあるが、四川話が使用されることはなかったと見られる（『四川電視台30周年』編纂委員会1990：486-491；『四川省志・広播電視志』：200-203；220）。

1972年5月に中国共産党四川省委員会は「成都電視台による番組の自局制作試行許可」¹⁾を決定し、同年8月に成都電視台は省内のニュースや記録映画を制作するようになった。『四川省志・広播電視志』は当時のテレビ番組における使用言語に言及していないが、同台では四川省及び成都市のラジオ局所属のアナウンサーが起用されていたことや、制作した番組の一部が北京電視台でも放送されていたことに鑑みれば、基本的に普通話が用いられていたと解するのが適当であろう（『四川省志・広播電視志』：203；211-212）。

上記の通り、テレビ草創期から1970年代前半にかけて、成都電視台による番組制作は依然として限定的であり、他局での二次利用も可能なように普通話を使うのが主流だったと考えられる。例外的に1960年に四川話による川劇²⁾の中継が行われた記録を確認することができるものの、その後文革をはじめ諸般の事情によりテレビ放送が停止されていたこともあって、文化芸術関連の番組が再スタートするのは約10年後のことになる（『四川省

志・広播電視志』：220)。

(2) 1970年代後半から1980年代

1970年代後半になると、成都電視台の放送エリアは拡大し、いよいよ本格的なテレビの時代が到来する。1978年8月1日に成都電視台は四川電視台に改称され、1983年からはカラー放送が始められた。この頃には、四川話を使用した川劇や地方伝統芸能を取り扱った番組が盛んになる(『四川省志・広播電視志』：200；211-212)。

筆者が従前考察してきた地域においても、テレビ放送が普及するに従い、方言による地方劇を取り扱う事例は認められたが、四川省の関連情報は他所に比して格段に多い。その背後には、以下のような動きがあった。

地方の特色を強調し、本省視聴者の鑑賞ニーズを満たすべく、四川電視台は特に川劇の放送に注意を払ってきた。1978年初旬、鄧小平同志が四川を訪れ視察を行った際、四川省文化局は、四川省及び成都市の川劇劇場の陳書舫、周企何、競華、周裕祥、曾榮華等の著名な俳優を動員し、金牛壩賓館にて「拷紅」、「迎賢店」、「画梅花」、「花田写扇」、「評雪辨踪」等の優れた伝統的折子戯³⁾を上演した。小平同志は鑑賞後、上演された演目を極めて賞賛し、「一部の演目は観客に向けて上演しても良いだろうし、テレビでやっても良いだろうが、ここ数年見かけたことがない。高齢の俳優が健在のうちに、資料を撮影しておく必要があるだろう。1つ2つ演目が準備できたなら、将来北京に行って上演するのも良い」と指摘した。小平同志の談話は、伝統劇に対する制限を打ち破り、人々の思想を解放したのであった。(『四川省志・広播電視志』：224)

後の最高指導者からお墨付きを与えられた川劇は、同省のテレビ放送に

おける人気コンテンツとなる。1980年から四川省内においては、「川劇を復興しよう」というスローガンの下、川劇に関する各種の取組みが展開されたが、四川電視台もこの流れに乗って、多数の作品を収録した。1977年から1985年までに同台が撮影・放送した川劇の番組は、120作品／約213時間に上るとされる。また、川劇を取り扱った演芸番組も複数誕生し、「農村俱樂部（農村クラブ）」もその1つであるが、農村の幹部や農民を主たるターゲットとしていたこと、地方民間芸能やドラマなどの要素も盛り込まれていたことからすれば、四川話が用いられる場面も少なくなかったように推察される（『四川省志・広播電視志』：224-225）。

一方、1980年代前半には、省内各地にもテレビ局が設置される。1981年10月1日には、重慶電視台が正式に始動し、毎週3日（火・木・土）夜間に3時間半の放送を行うようになった。当時、開始間もない同台でも番組制作には各種の試みがなされていたようであるが、四川電視台と同様に自局収録の川劇作品も放送されていた（何曉燕 2010b：83-84；『重慶市志・第十卷』：520）。

また、重慶電視台で特筆すべきは、1982年に青年の恋愛エピソードを描いた初の方言ドラマ「人與人不同（人と人は違う）」を制作・放送したことである。同台はその後も四川話によるドラマ制作を継続し、1989年には劉徳一主演の「凌湯圓（湯圓売りの凌湯元）」が人気を博した（何曉燕 2010b：84；田義貴 2009：30-68）。

ドラマという角度から再び四川電視台に視点を戻すと、こちらでは1986年から「龍門陣（四川よもやま話）」という四川話によるコントや短編ドラマからなる番組を放送するようになる。また、1989年には方言を用いた本格的なドラマ作品として「死水微瀾（澱みにできた漣）」が制作されたが、これは李劫人による同名の小説を原作としたものであった（電視劇部 1990：166-177；田義貴 2009：42-68）。

当時の四川電視台のドラマ制作部門は、次のように言語に関する見解を述べている（〔 〕は筆者によるもの）。

改めて言語の問題についてである。〔テレビドラマでは〕方言と普通話のどちらを使うのが良いだろうか？ 私たちは普通話の発音を用いつつ、四川方言の語句を取り入れるということを主張したい。このようにすれば、言語の規範化を保ったうえで、普通話を豊かにすることができるからである。しかし、実際の展開においては大いに予想外の出来事が起こるもので、テレビのコントシリーズである「龍門陣」はすべて方言を使ったものであったが、86年に中央電視台が放送したところ、人々に受け入れられ、このなかのある作品は賞を獲得した。これにより地方の特色に関する言語の問題は解決しただろうか？（電視劇部 1990：177）

このように使用言語に思考をめぐらせている背景には、四川電視台が地域の特徴を反映したドラマ制作に注力していたことが指摘できる。かかる取組みの具体例としては、当地の方言を使用したり、李劫人のような四川出身の作家による小説を原作としたりといった試みが挙げられ、その結果として「龍門陣」や「死水微瀾」が誕生したのである（電視劇部 1990：176）。

上記の重慶電視台による「凌湯圓」と四川電視台による「死水微瀾」は、いずれも翌1990年にラジオ・テレビ部⁴⁾主催第1回「双向賞」にて二等賞を受けた。同年の一等は該当なしで、二等は全国1,200作品のなかでこの2つのみであり、正に快挙であった（田義貴 2009：42；205）。

(3) 1990年代

四川省及び重慶市は、四川話によるドラマ作品が全国的な賞を獲得するという幸先の良い滑り出しで1990年代を迎えた。かくして追い風を受けた

方言ドラマは、後掲表4及び表5の通り、順調に成長していく。

1990年代前半の四川話ドラマの代表作としては、重慶電視台の「傻兒師長（アホ師団長）」が挙げられる。1992年放送の同作は、抗日戦争期を舞台とした劉徳一主演のコメディであるが、第2回「双向賞」にて一等賞、最優秀主演男優賞、最優秀脚本賞及び最優秀監督賞の4部門を獲得したほか、同年の「四川省『5分野1作品プロジェクト』賞」⁵⁾や1996年に中国テレビ芸術家協会⁶⁾主催の「全国新時期（1986-1996年）優秀テレビコメディ賞」⁷⁾等も受け、その後「傻兒軍長（アホ軍長）」（1993年）や「傻兒司令（アホ司令官）」（1997年）のようにシリーズ化した（田義貴2009：70-73）。

重慶電視台は、1990年代中盤にも全国的に著名となった方言ドラマ作品「山城棒棒軍（山城重慶の荷運び労働者たち）」を世に送り出した。同作はタイトルの通り重慶名物の荷運び労働者たちをユーモラスに描いたコメディであったが、1996年に地元で制作・放送された後、「その影響は四川・重慶地区を遠く越えて、全国の大部分のテレビ局により放送され、特に北京、広東、海南、中南、北西の各地区にていずれも良好な視聴率と評判」⁸⁾を得るとともに、専門家からも高い評価を受け、「全国新時期（1986-1996年）優秀テレビコメディ賞」や「全国『5分野1作品プロジェクト』賞」⁹⁾に選出された（田義貴2009：79-81）。

四川電視台も四川話によるドラマの制作を続けており、1990年代前半の「在其香居茶館里（其香居茶館にて）」及び「一個秋天晚上（ある秋の夜）」は、四川出身の作家である沙汀による同名の小説を原作としたもので、地域の特徴を反映するという1980年代からの方針を継承していたことが確かめられる。また、後掲表5の通り、同時期には成都電視台も方言を使用したドラマ制作に着手するようになった（田義貴2009：206-207）。

ここまで確認してきた四川話による各作品は、主として前号第2章で関係する制度を確認した「テレビドラマ」、つまり「連続ドラマ」の枠に収ま

るものである。これに対して、1990年代中盤から終盤にかけて、重慶市及び四川省では「欄目劇」¹⁰⁾や「情景劇」¹¹⁾と呼ばれるジャンルにおいて方言を使用した作品が台頭してくる。このカテゴリーの作品としては、重慶電視台の「霧都夜話（霧都重慶の夜話）」（1994年）と四川電視台の「天府龍門陣（天府成都のよもやま話）」（1999年）が初期の双璧をなしており、前者が欄目劇、後者が情景劇やコント等であった。以下、両者の内容を確認したい。

まず、「霧都夜話」は中国初の方言による欄目劇として1994年9月に「飛天大世界（飛天グレートワールド）」という番組の1コーナーとしてスタートし、その後1番組として独立した。毎回オープニング映像に続いて流れる「これはテレビドラマではありません。これは実在の人物と実際の出来事であり、私たち庶民が自分自身を演じた物語なのです」¹²⁾というナレーションの通り、同番組の内容は主として庶民から提供された実話に基づく1～2話完結の短編であり、キャストもプロの俳優でない者が中心である（何曉燕 2010a : 308 ; 劉蔚娜 2021 : 84 ; 譚天 2006 : 69-71 ; 田義貴 2009 : 101-105 ; 王亜娜 2006 : 43-45）。

「霧都夜話」のプロデューサーである馬及人は、2004年の「中国国際ラジオ・映画・テレビ博覧会」¹³⁾での講演において、上記のような措置や方言の使用が低予算番組であることに起因していると述べている。すなわち、当初当該番組は1回当たりの予算が僅か2,000元のみであり、専門の役者を起用するのはおよそ不可能であることから、やむを得ず重慶在住の素人を出演させ、普段使用している方言を話させたところ、むしろ演技にリアリティを生むことができたとしている。また、予算が限られているがゆえ、地道に足を使ったりサーチを繰り返した結果、重慶市及び山峡エリア在住約3,000万人のうち約2,000万人が農民であり、こうした中位から下位の社会階層に属する人々がテレビのコアな視聴者であることを突き止め、なかなか中年女性を番組の主たる視聴者として絞り込み、その嗜好に合った内

容を検討していったようである¹⁴⁾。

つぎに、「天府龍門陣」は、1999年11月に開始した番組であり、毎週平日19時から放送されていた。同番組はコメディを基調としたバラエティであり、四川話によるコントや「散打評書」¹⁵⁾を中心に構成されている時期もあれば¹⁶⁾、数十話に亘る情景劇が放送されることもあった。そして、いずれの内容に関しても、「霧都夜話」とは異なり、プロの芸人を起用することにより、伝統芸能のリソースを活かしながら、成都エリアの地域的特徴を反映した作風に仕上げられていった(田義貴2009:101-105;212-215)。

1990年代中盤以降は、上海電視台の「老娘舅(世話焼き年配者)」(1995年)や湖南經濟電視台の「故事酒吧(ストーリー・バー)」(1998年)等が既にスタートしていたものの、方言による情景劇はなお黎明期にあった(小田2018b:234;2021:147)。こうした状況下において、四川省にて「天府龍門陣」が始められたことは、後続する四川話を用いた情景劇の制作を促し、ひいては全国的な方言番組ブームに繋がっていったと見做すこともできるだろう。

それでは、以上のような広義のドラマ以外の方言番組はどうであっただろうか。関連する文献に当たる限りにおいては、1990年代までの重慶市及び四川省において様々なジャンルの番組で四川話が使用されていたという直接的な言説を確認することはできない。しかし、四川電視台や成都電視台(成都經濟電視台)が制作・放送した演芸番組の一部はソフト化されており¹⁷⁾、それらを視聴してみると、コントや漫才、講談、諧劇¹⁸⁾などで四川話が使用されていることが確かめられ、テレビのスピーカーから方言が流れる機会は少なくなかったと見られる。そして、こうしたジャンルの芸人——例えば、散打評書の李伯清や諧劇の沈伐などは、川劇の俳優——例えば、「凌湯圓」や傻兒シリーズの劉徳一などと並び、ドラマ作品への出演も多い。このように地元の各種芸能活動に従事する者の存在がテレビでの方言

使用と密接な関係を有していることも当該エリアの特徴として指摘できる。

(4) 2000年代以降

2000年代に入ってから重慶市及び四川省では、方言によるドラマ制作が堅調であった。後掲表4の通り、重慶市では連続ドラマ作品の数量が伸びていった。また、重慶電視台、四川電視台、成都電視台といった有力なテレビ局は、「霧都夜話」のような欄目劇や「天府龍門陣」のような情景劇の種類を増やしていった。2000年代前半までに、当該エリアは方言ドラマの一大生産拠点としての地位を確固たるものとしたのである。

さらに、ドラマ以外の方言番組の幅も拡大していく。以下、特徴的な動向を3点取り上げてみたい。

第1に、方言ニュースの投入が挙げられる。四川電視台は、2001年に「新聞書場（ニュース演芸場）」を始めた。当該番組は、李伯清を起用し、散打評書で時事問題を取り扱うものである。2004年以降の全国的な方言ニュースブームの火付け役といえば、杭州電視台の「阿六頭說新聞（阿六頭がニュースを語る）」がその筆頭であり、ローカルニュースの取材映像とその内容に対する方言での語りといった構成が各地で模倣されていった訳であるが、こうしたスタイルの源流を更に遡っていけば、四川電視台の「新聞書場」に辿り着くといえる。この意味において、四川省は方言ニュースの起源地であるとも評されよう（章2009：115-116；韓鴻2003：68；『天府早報』2004年1月14日）。

第2に、ラジオ番組との関係が指摘される。四川電視台の「天府食舫（天府成都の美食船）」は、2004年に四川人民廣播電台經濟チャンネル「吃在成都」のパーソナリティである飛哥が出演したグルメ番組である。また、成都電視台の「天天擺聊齋（日々のおしゃべり）」や「小剛侃侃侃（小剛のしゃべってしゃべって）」、「七陽秀（ビー・ヤング・ショー）」などは、ラジオの人気パーソナリティが出演する方言トーク番組である（王健2008；楊楠2017；

『中国広播電視年鑑』2017年版：146；成都響沙唱片有限公司ウェブサイト¹⁹⁾。

第3に、オリジナルのアニメーションが制作された事例が認められる。2006年に重慶電視台は「麻辣小冤家（愛しのリトル・スパイシー・エネミー）」という四川話のアニメ作品を放送した。同作は、前年に好評を得た「麻辣冤家（愛しのスパイシー・エネミー）」を改編したものであり、実写の方言作品がアニメ化された珍しい事例と捉えられる（寇強・夏光富 2010：180）。

上述の通り、重慶市及び四川省では、2000年代中盤までに方言番組が完全に定着した。テレビ局は次第に方言番組を有力なコンテンツとして強く打ち出すようになる。田義貴（2009）には、次のような記述がある。

特に取り上げるべきは、重慶電視台が2004年7月23日に専門の方言・コメディチャンネル²⁰⁾を開設したことであり、これは全国初の方言ドラマチャンネルである。重慶電視台上層部の関係者によると、同チャンネルを開設した目的は地域文化を目に見えるようにしていくことにあるという。同チャンネルは開設以来、既に多くの方言ドラマ作品を放送しているが、何度も再放送されている「傻兒師長」や「山城棒棒軍」のような旧作も相変わらず高視聴率を持っている。方言・コメディチャンネルの開設は、重慶電視台の「方言ドラマという切り札を使い、方言ドラマという道を行く」という戦略の1つであり、四川・重慶の方言ドラマ・映画作品の制作を促進させるのに重要な役割を有している。（田義貴 2009：111）

ここに見られる「方言・コメディチャンネル」については、『重慶広播電視年鑑』（2005年版）に掲載された2004年の年間日誌にも次のように記録がなされている。

7月23日 重慶電視台は全国に先駆けて初の方言・コメディチャンネルの放送を開始。主として方言による情景劇のコメディシリーズ、お笑い系のバラエティ番組及び新たに編集、方言によるアフレコを行った流行のドラマ作品を三枚看板として構成。(『重慶広播電視年鑑』2005年版：124)

しかし、各種文献を精査しても、「方言・コメディチャンネル」という記載は、上記以外には見当たらない。『中国電視収視年鑑』(2005年版)の全国テレビ局チャンネル一覧には、59番目に「重慶電視台コメディチャンネル」との記載があり、「方言」という文言は含まれていない。また、同年に刊行された重慶電視台に関する論考や記事でも総じて「コメディチャンネル」という名称が用いられている(蔡敏 2004：45；伍星 2004：128；『中国電視収視年鑑』2005年版：651)。

もっとも、重慶電視台コメディチャンネルは、その名称にかかわらず、方言の使用に相当程度軸足を置いていたことが確かめられる。例えば、『重慶広播電視年鑑』(2006年版)は、同チャンネルについて次のように説明している。

コメディチャンネル

コメディチャンネルは主として自局制作の方言ドラマ、方言によるトーク、コメディの情景劇を放送しています。重慶に立脚しつつ、全国に目を向けるべく、方言で話すとともに、全国的な話題も備えています。

構成：方言ドラマ+外部購入によるゴールデンタイムのバラエティ番組(『重慶広播電視年鑑』2006年版：381)

また、注目すべきは、蔡敏（2004）における次のような記述である。

重慶電視台は既に「コメディチャンネル」を開設しているが、このチャンネルは同地で制作された多くの方言番組を放送しており、実質的には半ば方言チャンネルであって、方言番組チャンネルという名称を使うことができないというに過ぎない。（蔡敏 2004：45）

この記述からは、重慶電視台コメディチャンネルは、事実上「方言チャンネル」と見做して差し支えないような状態にあるものの、何らかの事情により、そのように名乗ることが許されていないように窺われる。

他方、当時の四川省の状況については、『華西都市報』に次のような内容が確認できる。

調査によれば、短い時間のうちに、成都のテレビ局及びラジオ局が擁する方言番組は6、7本余りに達し、全体の約1/40を占め、更に上昇傾向にあることが明らかにされている。（『華西都市報』2004年8月3日）

また、四川電視台經濟チャンネルは、2005年8月1日にリニューアルを行い、「方言テレビの時間枠を設け、地方の特色を創出する」という謳い文句の下、毎日22時に「方言テレビ」という専用枠を設け、平日は欄目劇の「麻辣燙（マーラータン）」、週末はトーク番組の「串串香（麻辣味の串火鍋）」を放送した（『華西都市報』2005年8月1日；『四川日報』2005年8月1日）。

成都市において方言番組がテレビ・ラジオで合計6～7本、全体に占める割合が約2.5%というのは必ずしも高い数値ではない。しかし、四川電視台でも方言番組が放送されていたことに鑑みれば、テレビのチャンネルを回せば常時どこかで四川話が聞こえるような状態であったと捉えることも

できる。

最後に、四川省の市級局による方言番組の放送状況は、後掲表7の通りであり、省都の成都電視台を除くと、2000年代終盤によく欄目劇や情景劇、トーク番組が各地級市で散見されるようになった。これは換言すれば、2000年代中盤の全国的な方言番組ブームの直接的な影響は、1980年代から省級局により方言番組が放送されてきた同省に対して皆無に等しかったということである。

以上が従前の重慶市及び四川省におけるテレビでの方言番組の放送状況であり、次のようにまとめられるだろう。すなわち、当該地域では、1980年代にテレビ放送が本格化するなかで、四川電視台が川劇に注力してきた。また、その後1980年代終盤からは、重慶電視台及び四川電視台が四川話によるドラマ制作に取り組み、1990年代中盤以降は方言による欄目劇や情景劇が新たに始められた。そして、2000年代に入ると、ニュースやトーク、アニメ等でも四川話が用いられるようになり、方言番組はジャンルを拡大し、テレビ放送での確固たる地位を築き、省級局を中心に地方の特徴を活かすといった名目で重宝された。他方、四川省内の各地級市では、2000年代終盤頃によく方言番組が放送されるようになり、全国的な方言番組ブームとは縁遠い状態であった。

表4 重慶市における主な方言ドラマ作品

テレビ局	時期	タイトル	時期	タイトル
重慶電視台	1982年	人与人不同	2002年	為民醫院
	1985年	重慶掌故	2002年	青樓煙雲
	1986年	啊！方向盤	2003年	都市俏辣妹
	1989年	凌湯圓	2004年	新街坊隣居
	不明	胖子瘦子高大姐	2004年	愛情加油站
	1992年	九根毛	2005年	憨人何多寿
	1992年	傻兒師長	2005年	農家寨
	1993年	傻兒軍長	2005年	女兒街
	1994年	霧都夜話	2005年	戳鍋漏
	1995年	水流沙壩	2005年	麻辣冤家
	1995年	龍頭老大	2006年	鄉里人家
	1996年	山城棒棒軍	2007年	男人四十有点惑
	1997年	傻兒司令	2008年	山城棒棒軍Ⅱ
	1999年	方腦殼外伝	2009年	蓮花鬧海棠
	1999年	擱得平外伝	2010年	家有喜事
	1999年	空了吹	2011年	家鷄打得团团轉
	1999年	爬坡上坎	2012年	言子江湖
	1999年	都市万花筒	2014年	戲耍耍
	2000年	街坊隣居	2014年	望龍門客棧
	2001年	奇人安世敏	2014年	傻兒伝奇
2001年	王保長歪伝	2015年	街坊隣居3	
2001年	醉仙樓	2016年	火鍋伝奇	
2001年	美麗夢工廠	2018年	棒棒的幸福生活	

出所) 何曉燕 c2010 : 77 ; 賈・張 2017 : 36 ; 田義貴 2009 : 205-215 ; 武漢大学中国語情監測与研究中心 2013 : 25-26 ; 周・黄 2016 : 127 ; 『重慶廣播電視年鑑』2015年版 : 113 ; 『重慶晨報』2007年4月29日 ; 2009年7月27日 ; 2011年9月24日 ; 2011年10月1日 ; 『重慶商報』2008年12月29日 ; 『重慶時報』2005年1月24日 ; 『重慶晚報』2005年7月27日 ; 2005年10月28日 ; 華龍網 (2018年9月27日) 『『棒棒的幸福生活』今晚重慶衛視開播 致敬經典却又“顛覆”』 (<http://h5.cqliving.com/info/detail/1551108.html?cid=1551108>) ; 四川榜樣文化傳播有限公司ウェブサイト (2014年9月16日) 『『望龍門客棧』重慶影視開播』 (<http://c.show160.com/333067/news/a432527>) ; 網易娛樂 (2016年5月10日) 『黄伊唯『火鍋伝奇』殺青 轻松玩转方言台詞』 (<https://www.163.com/ent/article/BMNE2AJN00034VDC.html>) ; 新浪娛樂 (2014年12月22日) 『『傻兒伝奇』定位精准 老經典煥發新春』 (<http://ent.sina.com.cn/v/m/2014-12-22/doc-icczmvun4058715.shtml>) (各最終閲覧 2022年2月22日) に基づき筆者作成。なお、制作・放送の時期に関しては、資料間で一定の誤差が見られることを付言する。

表5 四川省における主な方言ドラマ作品

テレビ局	時期	タイトル	テレビ局	時期	タイトル
四川電視台	1989年	死水微瀾	四川電視台	2000年	淘金記
成都電視台	1993年	王大爺新伝	四川有線電視台	2000年	表妹進城
四川電視台	1994年	在其香居茶館里	四川電視台	2000年	仮打外伝
四川電視台	1994年	一個秋天晚上	四川電視台	2001年	花二哥与六朵金花
成都電視台	1994年	何処不風流	四川電視台	2004年	王保長新篇
綿陽電視台等	1994年	跑灘	四川電視台	2004年	山嫂子
四川電視台	1994年	李扯火	四川電視台	2004年	疙瘩奇事
成都電視台	1994年	唐肥腸伝奇	成都電視台	2005年	王保長后伝
四川電視台	1994年	鬼城奇遇	四川電視台	2006年	王保長今伝
四川有線電視台	1995年	胖哥逗人愛	四川電視台	2006年	王保長今伝 2
什邡电视台	1997年	三喜臨門	四川電視台	2006年	幸福耙耳朵
四川電視台	1998年	下課了, 要雄起	四川電視台	2009年	那個地方要得不
成都電視台	1997年	府河人家	四川電視台	2018年	歡喜囍店

出所) 田義貴 2009 : 205-215 ; 央視—索福瑞媒介研究 2005 : 66 ; 『中国電影年鑑』1995年版 : 93 ; 『成都日報』2004年6月26日 ; 2009年3月25日 ; 『成都商報』2004年10月22日 ; 2005年2月18日 ; 2006年5月4日 ; 2006年8月23日 ; 『華西都市報』2012年1月8日 ; 『天府早報』2000年8月3日 ; 2001年1月5日 ; 騰訊網 (2020年4月29日) 「笑料不斷! 『幸福耙耳朵之父子熊兵故事』在高槐村開機」(<https://new.qq.com/rain/a/20200429A0N9MZ00?pc>) ; 中央廣播電視總台ウェブサイト (2017年12月18日) 「30集方言系列喜劇『歡喜囍店』順利殺青」(<http://ent.cctv.com/2017/12/18/ARTIPXF6QTI2s6c1Jy7LVDQAq171218.shtml>) (各最終閲覧 2022年2月22日) に基づき筆者作成。なお、制作・放送の時期に関しては、資料間で一定の誤差が見られることを付言する。

表6 重慶市のテレビ局による主な方言番組

テレビ局			開始時期	番組名称	ジャンル
等級	放送局	チャンネル			
省級	重慶電視台	都市, 衛星	1994年	霧都夜話	ドラマ(欄目劇)
		衛星	1998年	龍門陣	トーク
		ファッション	2002年	生活麻辣燙	ドラマ(情景劇)
		不明	2006年	麻辣小冤家	アニメ
		ファッション	2007年	有話好好説	ドラマ(情景劇)
		ファッション	2008年	麻辣群英会	バラエティ
		都市	2010年	凡人有樂	オーディション

		都市	2012年以前	凡人有戲	ドラマ(情景劇)
		都市	2013年	大城小事	紛争解決
		ファッション	2017年	我有一套避暑房	ドラマ(情景劇)
		ファッション	2018年	重慶一家人	ドラマ(情景劇)
		ファッション	2018年	麻辣冤家对是對	ドラマ(情景劇)
	重慶有線電視台	—	1998年	巴渝茶樓	トーク

出所) 寇・夏 2010 : 180 ; 劉蔚娜 2021 : 85 ; 龐英 2020 : 19 ; 田義貴 2009 : 205-215 ; 王逸虹 2013 : 59-61 ; 向敦厚 2001 : 33 ; 『重慶廣播電視年鑑』 1999年版 : 137 ; 2010-2011年版 : 10 ; 2012年版 : 123 ; 『中国廣播電視年鑑』 1999年版 : 280 ; 『重慶商報』 2007年11月12日 ; 2008年5月4日 ; 『重慶晚報』 2006年7月26日 ; 華龍網 (2017年9月9日) 「重慶方言系列劇『我有一套避暑房』在貴州開機」 (http://cq.cqnews.net/html/2017-09/29/content_43026725.html) ; (2018年6月18日) 「重慶電視台再推金牌方言喜劇『重慶一家人』今晚開播」 (http://cq.cqnews.net/html/2018-06/18/content_44498747.htm) ; 新浪重慶 (2018年9月30日) 「重慶電視台時尚頻道國慶黃金周 假日大劇精彩不停歇」 (<http://cq.sina.com.cn/news/y/2018-09-30/detail-ifeuwwr9921254.shtml>) (各最終閲覧2022年2月22日) に基づき筆者作成。なお、等級に関しては、1997年に直轄市になるまでは市級であった。

表7 四川省のテレビ局(省級・市級)による主な方言番組

テレビ局			開始時期	番組名称	ジャンル
等級	放送局	チャンネル			
省級	四川電視台	不明	1986年	龍門陣	ドラマ(短編・コント)
		経済	1999年	天府龍門陣	ドラマ(情景劇)
		ニュース情報	2001年	新聞書場	ニュース
		公共	2004年	天府食舫	グルメ
		経済	2004年	経済麻辣燙	ドラマ(欄目劇)
		経済	2005年	麻辣燙	ドラマ(欄目劇)
		経済	2005年	串串香	トーク
		衛星・文化旅行	2006年	開心21	バラエティ
		経済	2005年以前	四川房地產	不動産
		文化旅行	2006年以前	香炒穀子	ニュース
		経済	2006年以前	吃八方	グルメ
		文化旅行	2007年	胖姐帮忙	ニュース
		経済	2009年	青神故事	ドラマ(情景劇)
		経済	2011年	幸福生活麻辣燙	ドラマ(欄目劇)
文化旅行	2014年	方言達人	オーディション		

市級	成都電視台	不明	2000年以前	李伯清散打評書	トーク
		ニュース総合	2002年以前	天天擺聊齋	トーク
		不明	2004年以前	阿聰読報	ニュース
		都市生活	2005年	成都情事	ドラマ(欄目劇)
		33	2005年	道聽途説	トーク
		生活	2005年	譚談交通	法律
		映画・ビデオ・文芸	2006年	蜀人茶坊	ドラマ(情景劇)
		ニュース総合	2007年以前	老蔡講故事	ドラマ(欄目劇)
		不明	2007年以前	大城小事	ドラマ(欄目劇)
		経済情報サービス	2008年	兄弟姐妹	ドラマ(情景劇)
		経済情報サービス	2009年以前	李伯清大話60年	トーク
		都市生活	2009年	小剛侃侃侃	トーク
		経済情報サービス	2010年以前	李伯清大話成都智慧	トーク
		経済情報サービス	2010年	小剛剛剛好	トーク
		経済情報サービス	2011年以前	李伯清大話水滸	トーク
		経済情報サービス	2012年以前	李伯清書場	トーク
		ニュース総合	2012年	百姓故事会	トーク
		経済情報サービス	2013年以前	李伯清逛新村	旅行
		都市生活	2013年	胖姐当家	ドラマ(情景劇)
		公共	2016年	昊哥朋友圈	トーク
	経済情報サービス	2017年	匕陽秀	トーク	
	ハッピー3	2018年	胖姐超市	ドラマ(情景劇)	
	ハッピー3	2018年	幸福対対碰	ドラマ(情景劇)	
	広元電視台	公共	2009年	老鹰嘴茶話	ドラマ(欄目劇)
	達州電視台	不明	2012年	家有喜事	ドラマ(情景劇)
		不明	2014年	江城故事	ドラマ(情景劇)
		不明	2017年	A8家装麻辣燙	ドラマ(情景劇)
徳陽電視台	公共	2014年	徳陽情事	ドラマ(欄目劇)	
	ニュース総合	2020年以前	歛型一家親	ドラマ(情景劇)	
遂寧電視台	公共	2009年	遂州風情	ドラマ(欄目劇)	
	不明	2011年以前	遂寧龍門陣	トーク	
眉山電視台	総合	2016年以前	1840龍門陣	トーク	

樂山電視台	公共	2013年	非常衝殺子	ニュース
	新農村	2014年以前	舒妹說事	トーク
宜賓電視台	不明	2009年以前	酒都大觀樓	ニュース
	不明	2009年	酒都龍門陣	ドラマ(欄目劇)
	公共	2015年以前	風哥擺哈哈兒	トーク

出所) 曹鋼 2011 : 44 ; 陳革 2006 : 121 ; 電視劇部 1990 : 166 ; 范・陳 2013 : 83 ; 韓鴻 2003 : 68 ; 2004 : 35 ; 侯・謝 2006 : 97 ; 賴・楊 2007 : 90 ; 李鍵 2016 : 93 ; 林坤陽 2014 : 134 ; 申振華 2007 : 27 ; 田義貴 2009 : 205-215 ; 王健 2008 ; 王瑞 2022 : 95 ; 武漢大学中国語情
 監測与研究中心 2013 : 25-26 ; 薛月兵 2008 : 66 ; 楊・章 2019 : 185 ; 曾・涂 2009 : 97 ;
 周・喬 2019 : 88 ; 『達州年鑑』 2018年版 : 416 ; 2019年版 : 346 ; 『四川省志【第七十卷】
 廣播影視志 (1986-2005)』 : 148 ; 『遂寧年鑑』 2010年版 : 354 ; 『宜賓年鑑』 2010年版 :
 270 ; 『中国廣播電視年鑑』 2002年版 : 276 ; 2012年版 : 208 ; 2017年版 : 146 ; 『中国電視
 取視年鑑』 2009年版 : 493 ; 2010年版 : 498 ; 2011年版 : 493 ; 2016年版 : 190 ; 『成都日報』
 2007年 7月 4日 ; 2012年 3月 24日 ; 『成都商報』 2012年 1月 2日 ; 『成都晚報』 2007年 1
 月 30日 ; 2008年 7月 22日 ; 2013年 2月 1日 ; 『華西都市報』 2004年 8月 3日 ; 2006年 1月
 25日 ; 2006年 8月 17日 ; 2006年 9月 27日 ; 2009年 12月 17日 ; 『眉山日報』 2011年 7月 31日 ;
 『四川日報』 2005年 8月 1日 ; 『遂寧日報』 2017年 6月 4日 ; 『天府早報』 2004年 11月 27日 ;
 成都電視台公式微博 (2016年 3月 2日) 「CDTV-5 (成都電視台公共頻道) 節目改版」
 (<https://weibo.com/p/1001603948508569803620>) ; 成都市廣播電視台ウェブサイト (無限
 成都) 「胖姐超市 (更新至第49集)」 (<http://cando.cditv.cn/show-1176-1326248-1.html>) ;
 「幸福対対碰 (全 6集)」 (<http://cando.cditv.cn/show-1176-1325218-1.html>) ; 達州市文芸網
 「達州市文聯年鑑 (2012年卷)」 (2019年 10月 12日) ([http://dzwyw.net/Article/ShowArticle.
 asp?ArticleID=7333](http://dzwyw.net/Article/ShowArticle.asp?ArticleID=7333)) ; 「達州大型本土情景喜劇『江城故事』正式開機」 (2014年 4月 21日)
 (<http://www.dzwyw.net/Article/ShowArticle.asp?ArticleID=3893>) ; 德陽傳媒網「2014年 10
 月 24日『德陽情事』陳家根」 (2014年 10月 27日) ([https://scdytv.com/newsdetails/64811b
 89-0980-4a9a-b675-0911134d616d.cshtml](https://scdytv.com/newsdetails/64811b89-0980-4a9a-b675-0911134d616d.cshtml)) ; 德陽全媒体 (澎湃網) 「在家打開電視, 德陽廣
 播電視台陪你解解悶!」 (2020年 2月 1日) ([https://m.thepaper.cn/newsDetail_forward_
 5722850](https://m.thepaper.cn/newsDetail_forward_5722850)) ; 廣元市人民政府ウェブサイト「『老騰嘴茶話』方言短劇演員選拔活動隆重舉行」
 (2009年 8月 26日) ([https://www.cngy.gov.cn/gongkai/show/20090826102152-057893-00-
 000.html](https://www.cngy.gov.cn/gongkai/show/20090826102152-057893-00-000.html)) ; 「市文広新局直屬單位簡介 (広元市廣播電視台)」 (2015年 8月 31日) ([https://
 www.cngy.gov.cn/artic/show/20160720152274119.html](https://www.cngy.gov.cn/artic/show/20160720152274119.html)) ; 四川榜樣文化伝播有限公司ウエ
 ブサイト (2013年 2月 27日)「『胖姐当家』情景劇 2月 25日爆笑登場」 ([http://c.show160.
 com/333067/news/a178586](http://c.show160.com/333067/news/a178586)) ; 四川在線「建設新高地 我們再出發」 眉山市廣播電視台推
 出“信息大餐” (2016年 12月 28日) ([https://sichuan.scol.com.cn/mxsw/201612/55784627.
 html](https://sichuan.scol.com.cn/mxsw/201612/55784627.html)) (各最終閲覧 2022年 2月 22日) に基づき筆者作成。

以下, 「中華人民共和国重慶市及び四川省における方言番組をめぐる政策
 について (3)」に続く。

注

- 1) 原語：「成都電視台可以試弁自弁節目」。
- 2) 四川話により演じられる四川省の伝統劇であり、一瞬で仮面を変化させる「変臉」という技巧に特徴がある。
- 3) 筆者注：戯曲にて独立して上演される一幕のことを指す。
- 4) 原語：廣播電視部（広電部）。
- 5) 原語：「四川省『五個一工程』賞」。
- 6) 原語：中国電視芸術家協会。
- 7) 原語：「全国新時期（1986-1996年）優秀電視喜劇賞」。
- 8) 新浪娛樂（2008年1月8日）「『山城棒棒軍2』再続經典 謳歌普通人真實生活」（<https://ent.sina.com.cn/v/m/2008-01-08/15001866621.shtml>）（2023年2月22日最終閲覧）。
- 9) 原語：「四川省『五個一工程』賞」。
- 10) 主に実話を基礎としたドラマであり、大体1話完結か数話程度に収まる短編である。
- 11) いわゆるシチュエーションコメディである。
- 12) 原語：「這不是電視劇。這是真人真事，是我們老百姓自己演自己的故事」。なお、放送回・時期により多少のバリエーションが認められるが、基本的には内容は同じである。
- 13) 原語：「中国国際廣播影視博覽会」。
- 14) 新浪娛樂（2004年7月27日）「演講人：『霧都夜話』欄目制片人馬及人」（<https://ent.sina.com.cn/v/2004-07-27/1810456381.html?from=wap>）（2023年2月22日最終閲覧）。
- 15) 中国の打撃系格闘技である「散打」と講談を意味する「評書」を組み合わせた造語であり、台本に頼らない即興のスタンダップコメディのような芸風のことをいう。
- 16) コント作品や散打評書はソフト化されている（末尾の「映像ソフト」のうち「天府龍門陣系列」を参照のこと）。
- 17) 具体的には、四川電視台収録の「巴蜀笑星小品集」や「杠上花」，「球星看相」，「巴蜀笑星擂台賽」，「第2屆巴蜀笑星擂台賽」等，成都經濟電視台収録の「假打」や「生活百態」等が挙げられる（末尾の「映像ソフト」を参照のこと）。
- 18) 重慶市や四川省一帯で行われている地方民間芸能と演劇の中間的な形態の芸術様式を指す。
- 19) 成都響沙唱片有限公司ウェブサイト「羅小剛」（<http://www.xscp.net/>

- singer-show.asp?id=197) (最終閲覧 2023年 2月22日)。
20) 筆者注 (原語): 方言・喜劇頻道。

参考文献

日本語

- 小田格 (2016a) 「中華人民共和国福建省南部における閩南語テレビ放送について
—対台湾政策下における特例措置」『言語政策』第12号
—— (2016b) 「中華人民共和国浙江省における方言番組と政策変容: 新旧の関
係通知をめぐって」『中国研究月報』第70巻第8号
—— (2017a) 「中華人民共和国江蘇省における方言番組とその規制: 関係通知
の策定背景及び運用実態を中心に」『中国研究月報』第71巻第2号
—— (2017b) 「言語政策と評価に関する一考察: 中華人民共和国の『都市にお
ける言語・文字に関する事業の評価』制度を事例として」『人文研紀要』第86号
—— (2018a) 「中華人民共和国における方言番組をめぐる政策の変遷」『中国研
究月報』第72巻第7号
—— (2018b) 「中華人民共和国上海市における上海語テレビ放送と言語政策:
ポスト標準中国語普及時代の方言放送の行方」『人文研紀要』第89号
—— (2019) 「中華人民共和国における方言番組に対する規制通知等再考」『人
文研紀要』第92号
—— (2021) 「中華人民共和国湖南省における方言番組をめぐる政策について」
『人文研紀要』第99号
—— (2022) 「中華人民共和国江西省における方言番組をめぐる政策について」
『人文研紀要』第102号
章蓉 (2009) 「中国都市テレビ局の『新型』方言ニュースの革新—ハーバーマスの
『政治的公共圏の等価物』概念の検証—」『東京大学大学院情報学環紀要 情
報学研究』No.77

中国語

[論文, 書籍等]

- 蔡敏 (2004) 「四川方言電視節目探索」『当代電視』2004年第11期
蔡敏・余曉 (2004) 「全球化、地方化語境中的方言電視劇」『新疆大学学报 (哲学
社会科学版)』2004年第4期
曹鋼 (2011) 「融媒体時代城市電視台突圍路徑探析」『当代電視』2011年第3期
陳革 (2006) 「新無止境 聞達天下一見証20年發展歷程」『廣告大觀 (綜合版)』
2006年第11期

- 重慶電視台「龍門陣」欄目組編 (2004)『龍門陣』中国廣播電視出版社
- 電視劇部 (1990)「四川電視劇發展的歷史回顧及創作傾向」『四川電視台30周年』
編纂委員會編 (1990)『四川電視台30周年』内部資料・非売品
- 范瀟涵・陳亮 (2013)「在真情故事中傳播“正能量”—『百姓故事會』電視傳播的
實踐經驗談」『電影評介』2013年第8期
- 韓鴻 (2002)「方言電視與話語權力」『新聞界』2002年第4期
- (2003)「方言影視的文化解析」『新聞與傳播研究』2003年第1期
- (2004)「方言電視與話語權力」『新聞界』2004年第4期
- 何曉燕 (2010a)「『霧都夜話』：原態歷史、文化表徵和現實啓示」『藝術百家』2010
年S1期
- (2010b)「回望：重慶電視台的初創歷程 (1981-1983)」『電影評介』2010年
第3期
- (2010c)「插上飛躍的翅膀—概述重慶電視台電視劇發展史上的第一次高峰」
『電影評介』2010年第10期
- 侯明廷・謝黎 (2006)「省級地面頻道經營模式掃描之四川篇」『大市場·廣告導報』
2006年第12期
- 賈月・張瀟芸 (2017)「方言類電視欄目的發展空間探析—以『新老西兒諷吧』為
例」『傳媒』2017年第10期
- 寇強・夏光富 (2010)「基於地域特色的重慶動漫題材與產業發展路向研究」『新聞
界』2010年第3期
- 賴姝玲・楊翠雲 (2007)「差異策略打造頻道影響力—解構四川文化旅遊頻道」『廣
告人』2007年第10期
- 李鍵 (2016)「地面頻道大型活動創新策略」『西部廣播電視』2016年第1期
- 李建秋 (2001)「觀眾取向與電視頻道專業化」『重慶大學學報 (社會科學版)』2001
年第4期
- 林坤陽 (2014)「地方電視台民生新聞發展現狀及思路探討」『新聞研究導刊』2014
年第12期
- 劉蔚娜 (2021)「弘揚傳統文化 守衛本土方言—方言類電視節目的創新與收視分
析」『上海廣播電視研究』2021年第2期
- 龍程 (2023)「廣播脫口秀節目的幽默尺度探討—以四川綜合廣播『聽見四川』為
例」『西部廣播電視』2023年第5期
- 呂榮潔 (2008)「方言電視節目興起的原因、發展趨勢及反思」『東南傳播』2008年
第5期
- 馬驥 (2004)『散打笑星抽底火』四川出版集團・四川文芸出版社
- 倪沫 (2010)「電視新聞節目中的“俗文本”：方言新聞—兼論電視方言新聞節目的

- 書場特徵』『東南傳播』2010年第1期
- 龐英 (2020)「移動互聯時代電視調節節目的融合發展之路—以重慶廣播電視台都市頻道為例」『傳媒』2020年第10期
- 申振華 (2007)「夾縫中求生存—關於欄目劇現狀的思考」『西部廣播電視』2007年第10期
- 沈蕙 (2010)『重慶方言與城市文化』重慶大學出版社
- 『四川電視台30周年』編纂委員會編 (1990)『四川電視台30周年』內部資料·非売品
- 譚天 (2006)「『霧都夜話』顛覆了什麼？」『視聽界』2006年第3期
- 田義貴 (2009)『歷史形態與文化表徵：川渝方言影視劇研究』中國傳媒大學出版社
- 王健 (2008)『王健擺聊齋』中國山峽出版社
- 王瑞 (2022)「新媒體時代『譚談交通』節目中城市形象的情境化建構」『新媒體研究』2022年第12期
- 王亞娜 (2006)「一個電視傳奇背後的故事—『霧都夜話』節目形態解讀」『中國電視』2006年第2期
- 王逸虹·程世波 (2006)『鄉音敘事—方言電視劇的文化表達』大眾文芸出版社
- 王逸虹主編 (2004)『方言電視劇研究 (首屆西南方言電視劇學術研討會論文集)』中國山峽出版社
- 王逸虹 (2013)「論電視欄目劇的通俗化與地域性—以重慶方言電視節目為例」『四川戲劇』2013年第1期
- 武漢大學中國語情監測與研究中心 (2013)「西南四省方言電視節目抽樣調查」『中國語情』2013年第2期
- 無錫電視都市資訊頻道 (2007)「我們應該做怎樣的方言欄目劇—無錫電視首檔方言欄目劇『大話阿福』專家研討會綜述」『中國廣播電視學刊』2007年第11期
- 伍星 (2004)「衛星頻道全新定位 其餘8個各具特色 重慶電視台“大變臉”」『大市場·廣告導報』2004年第6期
- 向敦厚 (2001)「棧道奇兵 西部雄師—強勢媒體系列之重慶電視台」『新聞天地』2001年第3期
- 薛月兵 (2008)「方言劇文化意蘊初探」『山西師大學報 (社會科學版)』2008年第3期
- 楊楠 (2017)「方言在地方廣播節目中應用的優勢探析」『傳播力研究』2017年第1期
- 央視—索福瑞媒介研究 (2005)「央視—索福瑞媒介研究全國12城市電視劇收視TOP10」『市場研究』2005年第2期
- 楊曉東·章彤 (2019)「如何打造接地氣的方言脫口秀節目？」『西部廣播電視』2019

年第17期

曾波・涂叙忠 (2009) 「從『開心21』看四川方言類娛樂節目的走勢」『成都大學學報 (社會科學版)』2009年第1期

周怡帆・喬全生 (2019) 「方言類電視節目的演進歷程與文化思考：活態生存和價值共生」『現代傳播 (中國傳媒大學學報)』2019年第6期

周瑩・黃俊芳 (2016) 「淺談重慶方言電視劇衰落的原因及發展策略——以方言劇『街坊鄰居』為例」『西部廣播電視』2016年第19期

[年鑑, 地方志等]

『重慶廣播電視年鑑』編輯委員會編 (1998-2015) 『重慶廣播電視年鑑』(1998~2015年版) 重慶出版社

重慶市地方志編纂委員會 (2005) 『重慶市志・第十卷』西南師範大學出版社

達州市人民政府地方志辦公室編 (2018-2019) 『達州年鑑』(2018~2019年版) 中華工商聯合出版社

李洪仁總編 (2002) 『四川年鑑』(2002年版) 四川年鑑社

毛志雄總編 (2005) 『成都年鑑』(2005年版) 成都年鑑社

四川省地方志編纂委員會編 (1996) 『四川省志・廣播影視志』四川科學技術出版社—— (2019) 『四川省志・廣播影視志 (1986-2005) 【第七十卷】』方志出版社

遂寧地方志辦公室編 (2010) 『遂寧年鑑』(2010年版) 中國戲劇出版社

王蘭柱等主編 (2005-2017) 『中國電視收視年鑑』(2005~2017年版) 中國傳媒大學出版社

徐立軍主編 (2016) 『中國廣播收聽年鑑』(2016年版) 中國傳媒大學出版社

宜賓年鑑編輯委員會編 (2010) 『宜賓年鑑』(2010年版) 吉林音像出版社

『中國電影年鑑』編輯委員會 (1995) 『中國電影年鑑』(1995年版) 中國電影出版社
中國廣播電視年鑑編輯委員會編 (1987-2019) 『中國廣播電視年鑑』(1986~2018年

版) 北京廣播電視出版社

[新聞記事]

『成都日報』2004年1月14日「李伯清散打聲援民工討工錢」

—— 2004年6月26日「8月看“南腔北調”『山嫂子』」

—— 2007年7月4日「題材窄偏離生活胡編濫造 電視欄目劇能走多遠？」

—— 2008年7月22日「川味劇『擲個地方要得不』專亮央視」

—— 2009年3月25日「播新劇『擲個地方要得不』趙亮當新郎喜洋洋」

—— 2012年3月24日「羅小剛開講故事 欲與王剛爭高下」

『成都商報』2004年10月22日「笑星匯聚聊四川方言劇『疙瘩奇事』」

—— 2005年2月18日「『王保長后傳』頂風開播」

—— 2006年5月4日「『王保長今傳』幕後故事也搞笑」

- 2006年8月23日「『王保長今伝2』 傻兒再騙朱一群」
- 2007年4月17日「廖健含淚離開『開心21』」
- 2012年1月2日「李伯清新節目『成都傳奇』今晚起CDTV-2播出」
- 『成都晚報』2007年1月30日「巴蜀笑星從頭笑到尾 打造川版『東北一家人』」
- 2008年7月22日「『挪個地方要得不』 昨日殺青 比棒棒軍還好看」
- 2013年2月1日「胖姐、二莽來逗樂 往年味裏加“歡樂料”」
- 『重慶晨報』2007年4月29日「『男人四十有惑』 鬧五一 豪華重慶本土陣容」
- 2009年7月27日「電視劇『家有喜事』 登陸重慶電視台」
- 2011年9月24日「李伯清復出不散打」
- 2011年10月1日「諜戰劇唱主角娛樂節目當作料」
- 『重慶商報』2007年11月12日「重慶電視台打造『有話好好說』」
- 2008年5月4日「『麻辣群英會』 笑翻上萬觀眾」
- 2008年12月29日「重慶版『鄉村愛情』 今日播出」
- 『重慶時報』2005年1月24日「方言劇『戳鍋漏』 秘密開機 劇中主演也想上春晚」
- 『重慶晚報』2005年7月27日「生活頻道三喜臨門」
- 2005年10月28日「『鄉里人家』 開機凌淋曾凡強追寡婦母女」
- 2006年7月26日「重慶動漫業：原創才有生命力」
- 2006年8月29日「老翁玩動漫隻為逗孫子」
- 2007年11月12日「『有話好好說』今晚重慶台開播」
- 2009年8月27日「廣電總局“方言令” 惹爭議 對東北話放生？」
- 2014年3月19日「電視劇『傻兒傳奇』在榮昌開拍」
- 『華西都市報』2000年8月16日「四川方言劇『九品剃頭匠』開機」
- 2000年8月29日「重慶要建方言劇生產基地」
- 2004年8月3日「四川熒屏起方言工程 主持人鄉音一片要不要得？」
- 2005年8月1日「四川電視台全新改版 首次設立“方言電視”時段」
- 2006年1月25日「『開心21』 初一川台亮相 巴蜀笑星廖健當主持」
- 2006年8月17日「『成都情事』 請專家學者支招」
- 2006年9月27日「兩個“朱元璋” 鬧熒屏」
- 2009年12月17日「『成都情事』 告別熒屏 成都主播道歉」
- 2012年1月8日「他花甲之年寫“穿越” 閉關五年打造史詩動漫」
- 2017年11月8日「閩中老親鎮來了群巴蜀笑星 張德高、王寶器、劉沛洋在拍電視劇」
- 『今晚報』2006年4月6日「方言節目與普通話矛盾嗎？」
- 『眉山日報』2011年7月31日「本土方言劇：官方冀望與民間元素的融合」
- 『南方周末』2005年11月10日「忽悠的四川話」

- 2005年11月10日「四川話救了一個電台」
- 『時代商報』2009年7月23日「四川方言版『潛伏』剛被緊急停播」
- 『四川青年報』2000年4月12日「語言庸俗難出精品 四川方言劇為啥雄不起？」
- 『四川日報』2005年8月1日「川視經濟頻道大變臉」
- 『遂寧日報』2017年6月4日「遂寧方言：能夠記住鄉音鄉愁」
- 『天府早報』2000年8月3日「方言喜劇『假打外伝』語言粗糲」
- 2001年1月5日「方言劇『重慶球迷』遭重慶球迷封殺」
- 2004年1月14日「李伯清操素質 散打撿垃圾」
- 2004年11月27日「『天府食舫』要出書了」
- 2005年12月15日「成都電視台『道聽途說』好耍的江喃要轉方言」
- 2009年7月22日「迫于广电總局禁令 四川方言版『潛伏』被停播」
- 『羊城晚報』2006年4月3日「熱議禁播方言：“推普”無錯，“禁方”有過？」
- 〔映像ソフト〕
- 「抓壯丁」(VCD) 珠影白天鵝音像出版社・広州俏佳人文化伝播有限公司 (ISRC CN-F23-97-0088-0/VJ9)
- 「凌湯圓」(VCD) 重慶音像出版社・峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G05-97-303-00/VJ9)
- 「死水微瀾」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨影音像制作發行有限公司 (ISRC CN-G03-00-307-00/VJ9)
- 「九根毛」(VCD) 重慶音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G05-02-304-00/VJ9)
- 「傻兒師長」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨影音像制作發行有限公司 (ISBN 978-7-88588-557-1)
- 「傻兒軍長」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-98-301-00/VJ9)
- 「傻兒司令」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-98-302-00/VJ9)
- 「水流沙壩」(VCD) 重慶音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G05-03-0016-0/VJ9)
- 「山城棒棒軍」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・成都雅樂音像制作有限公司 (ISRC CN-G03-97-0022-00/VJ9)
- 「何処不風流」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨影音像制作發行有限公司 (ISRC CN-G03-02-314-00/VJ9)
- 「唐肥腸伝奇」(VCD) 四川電子音像出版中心・四川鼎天電子音像有限公司 (ISRC CN-T05-98-0003-0/VJ9)
- 「胖哥逗人愛」(VCD) 成都音像出版社・四川鼎天電子音像有限公司 (ISRC CN-G04-96-340-00/VJ9)

- 「爬坡上坎」(VCD) 重慶音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G05-02-305-00/V.J9)
- 「府河人家」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-00-301-00/V.J9)
- 「淘金記」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G03-04-302-00/V.J9)
- 「王保長歪伝」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G03-01-315-00/V.J9)
- 「王保長后伝」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G03-05-301-00/V.J9)
- 「王保長今伝」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G03-06-0166-0/V.J9)
- 「都市俏辣妹」峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨影音像制作發行有限公司 (ISRC CN-G03-02-315-00/V.J9)
- 「巴蜀笑星小品集」(天府龍門陣系列) (VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社・四川峨眉電影音像有限公司 (ISRC CN-G03-01-0019-0/V.J8) ※四川電視台収録
- 「杠上花 (第一集~第二集)」(天府龍門陣系列) (VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-00-0002-0/V.J8) ※四川電視台収録
- 「球星看相」(天府龍門陣系列) (VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-00-0005-0/V.J8) ※四川電視台収録
- 「巴蜀笑星擂台賽」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-99-0001-0/V.J8) ※四川電視台収録
- 「第2屆巴蜀笑星擂台賽」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-04-0078-0/V.J8) ※四川電視台収録
- 「假打」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-02-0026-0/V.J8) ※成都經濟電視台収録
- 「生活百態」(VCD) 峨眉電影制片廠音像出版社 (ISRC CN-G03-02-0027-0/V.J8) ※成都經濟電視台収録
- 「天府食舫」(DVD) 四川出版集團・四川科學技術出版社 (ISRC CN-Y49-04-0002-0/V.F)
- 「麻辣小冤家」(VCD) 廣東偉佳音像制品有限公司・齊魯電子音像出版社 (ISRC CN-E22-07-0025-0/V.J9)